

みんな元気が一番いい

横山コトさん
79歳 (殿台区)

「はお互い助け合って、仲良くすることが一番ですから」

64歳でゲートボールを始めた。練習の合間に火を焚いて餅を焼いたりコーヒーを飲んだり、「これがいいんだよね」とみんな話しているそうで、「年をとったらよけいに一人にいるといけない」とも。

日記を書き始めて60年、わずかだがその日あったこと、思ったことを書きつづっている。「今は手先の運動と思って続けていますよ」食事は野菜が主で、腹八分を心がけている。病気はあまりしたことがないが、昨年胃カメラを飲んだそうで「結果、大丈夫だったけど気にかかって2キロもやせました」と笑う。「これからも、体の続くかぎりゲートボールを楽しみたい」とまだまだ元気。

わくわく
ひろば

市民の皆さんのページです
あなたの情報で、ひろばは
さらにイキイキ ☎ 231117

エンジン 仲間達



松村 伸江さん
(通8区)

③①

編み物に生きがい求めて

編み物教室

竹針と指先で創り出す芸術？に挑戦する思いで、公民館活動の編み物教室に入会、週一回の教室です。内山先生を中心に正しい編み方の指導を受けています。

「まあ、ええ模様じゃね誰のほかね」「うちのじい様にや似合わんな」「どねえしたらそんな模

様になるほかね」「今度は孫にそねな模様編んじゃろ」など……。通の方言を交えての楽しい会話の中で、先輩達の見事な手さばきで次々と編み出される作品。気負いこんで入会した割には作品の完成も遅く、悪戦苦闘の連続ではありますが、習い始めた編み物に今は生きがいの灯を見いだし、一針ひと針思いを込めて頑張っています。



ちよっと小耳にはさんだ

②③

タヌキの餌づけ

「タローも花子も可愛くってね！」

松本 栄 治さん
(後ヶ追区)



「なついていただけに、手厚く葬ってやりました。12月頃、今度は3匹のタヌキが表れましてね。どうも『タロー』の室内と子どもようだ。1月からはこの親タヌキ『花子』と子ども餌づけに挑戦ですよ。不思議な縁を感じながら、タヌキと人間。まあ！家族ぐるみにつき合いい、これからは本番ってところでしようか」と目を細めます。

「夕方畑に行き『タロー』と4〜5回呼ぶと出てきましてね、その時にわざとエサをやらす背を向けるんです。『タロー』はふてくされたようにゴロンと横になり、しかし目だけはしっかりと私を見てるんですよ。そのしぐさに負けてエサをやるんですが、本当に可愛いもんでした」

昨年5月タヌキの『タロー』との出会いから2か月後の7月、手のひらでの餌づけまでにこぎつけた松本さんは、その様子を手振りを交えて話します。

「毎日、根気強く通ったものです。初めて手のひらの天ぷらを食べてくれたときは、年を忘

